

国際関係論

専攻

領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（国際関係論）

試験時間：（ 90 ）分

以下の1～4の設問から、留学生入試受験者は1つ、それ以外の受験者は2つ選択して答えなさい。選択した設問ごとに別の解答用紙を用い、氏名などの必要事項を記入したのち、解答する設問番号を解答用紙の左上欄に記入すること。同一設問について2枚以上の解答用紙を用いる場合は、1-(1)、1-(2)のように記入すること。

1. 冷戦終結以後グローバル化が拡大・加速し、貿易、政治、国際関係、法律など様々な側面においてその影響が増し、国家の権力や主権を限定的なものにしたとされてきた。ただし、ここ数年はそれに対して「国家の復権」とも取りうる動きが顕在化した。「国家の復権」として取りうる現象を複数あげて、そのグローバル化との関係を分析し、それがグローバル化に対してどのような影響を及ぼしているか、考察せよ。「国家の復権」はどの程度起こりえるか、その可能性と限界についても言及しながら考察せよ。

2. 国際関係論の学説史におけるコンストラクティビズムの位置づけと意義を解説した上で、具体的な事例に言及しながらその説明能力と限界について検討してください。

3. 絶対的貧困とは、食料・衣服・衛生・住居に関する最低限の要求基準に基づいて定義される貧困レベルである。世界銀行は、絶対的貧困者数の国際比較および経年比較を可能にする国際貧困ラインとして、購買力平価（PPP）に基づく米ドルを用いて所得水準を定めている。

この国際貧困ラインの変遷は、以下の通りである。

- ・1990年より：1.00ドル/日（1985年改訂PPPによる）
- ・2005年より：1.25ドル/日（2005年改訂PPPによる）
- ・2015年10月より：1.90ドル/日（2011年改訂PPPによる）
- ・2022年9月より：2.15ドル/日（2017年改訂PPPによる）
- ・2025年6月より：3.00ドル/日（2021年改訂PPPによる）

この変遷を見ると、過去35年間にわたり、国際貧困ラインは1.00ドル/日から3.00ドル/日へと一貫して上昇している。この上昇の理由について論じなさい。

4. ナショナリズムを説明する複数の理論をあげ、その理論的争点を解説してください。さらに、それぞれの理論について、現実の排外主義や地域紛争の生起を説明するにあたって有効な点と説明力を欠く点は何であることを、具体的な事例に即して論じてください。